

ウクライナ

主要データ

国名(英名)	ウクライナ [Ukraine]
面積(km ²)	603, 550
海岸線延長(km)	2, 782
人口(百万人)	43. 9
人口密度(人/km ²)	72. 8
GDP(10億US\$)	112. 10
一人当りGDP(US\$)	2, 552. 20
主要鉱産物：鉱石	鉄鉱石、マンガン、チタン、ウラン
主要鉱産物：地金	マグネシウム、ニッケル
鉱業管轄官庁	国家地質地下資源局、国家鉱業監督産業安全局、国家環境監視局
鉱業関連政府機関	環境天然資源省、エネルギー石炭産業省
ロイヤルティ	地下資源の採掘等に対して地下資源利用料あり
鉱業法	地下資源法（1994年7月27日制定、No.132/94-VR（1994年8月31日施行）、2019年12月19日最終改正） 鉱業法（1999年10月6日、No.1127-XIV（1999年11月11日施行）、2020年10月16日最終改正）
外資法	外国投資法（1996年3月19日、No.93/96-VR（1996年4月25日施行）、2020年7月21日最終改正） 外国投資保護法（1991年9月10日、No.1540 a-XII（1991年9月10日施行）） 投資活動法（1991年9月18日、No.1560-XII（1991年11月19日施行）、2019年3月10日最終改正）
環境規制法 (環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	環境保護法（1991年06月25日、No.1264-XII（1991年7月1日施行）、2020年4月13日最終改正） 環境影響評価法（2017年5月23日、No.2059-VIII（2017年6月18日施行）、2020年6月18日最終改正） 廃棄物法（1998年3月5日、No.187/98-VR（1998年4月14日施行）、2020年1月14日最終改正） ウラン鉱石採掘・加工法（1997年11月19日、No.645/97-VR（1997年12月19日施行）、2019年9月18日最終改正）
鉱業公社・国有企業	国営株式会社 Nadra Ukrayny、国営企業 United Mining and Chemical Company (UMCC 社)、国営企業 Vostochnyi GOK
鉱業活動中の民間企業	Zaporozhye Titanium & Magnesium Combin、UKRZINC CHEMICAL & METALLURGICAL PLANT、Velta LLC

1. 鉱業一般のトピックス

2030年までのウクライナ鉱物資源基盤発展国家プログラム(2011年4月21日付法律第3268-VI号により承認)によると、ウクライナでは117の鉱種について約2万の鉱床及び鉱徴が発見されており、うち98鉱種の8,290鉱床(及び1,110の登録対象)が経済的価値を有し、国家埋蔵量バランスシートに登録されている。そのうち、商業開発が行われているのは3,349鉱床であり、採掘量及び埋蔵量で最重要とされる対象は、石炭、鉄鉱石、マンガン鉱石、チタン鉱石、ウラン鉱石、カオリン、黒鉛、岩塩等である。

ウクライナのチタン資源基盤は大きく、26のチタン鉱床が国家埋蔵量バランスシートに登録されており(うち14が開発中)、うち2つが巨大鉱床、12が大規模鉱床に分類されている¹。このうち最も重要な鉱床は、Irshansk Mining and Processing Plant社(United Mining and Chemical Company社傘下)が開発するIrshanskoe鉱床、Verkhne-Irshanskoe鉱床、Lemnenskoe鉱床、Mezhdurechenskoe鉱床(以上ジトームィル州)や、Vilnohirsk Mining and Metallurgical Plant社(United Mining and Chemical Company社傘下)が開発するSamotkanskoe(Malyshevskoe)鉱床(ドニプロペトロウシク州)である。

また、同国はウランの資源量及び埋蔵量で世界10位以内に位置し、基盤岩中に20以上のウラン鉱床と158のウラン鉱徴が発見されている。現在、ウラン鉱石の採掘・選鉱を一貫して行っているのは国営企業Vostochny GOK社のみであり、傘下の鉱山には、キロヴォフロード州のSmolinskaya鉱山(Vatutinskoe鉱床を開発)、Ingulskaya鉱山(Michurinskoe、Tsentralnoe鉱床を開発)、Novokonstantinovskaya鉱山(Novokonstantinovskoe鉱床を開発)があり、坑内採掘が行われている。

他方、同国は世界最大級のマンガン埋蔵量を有している。マンガン埋蔵量はNikopolske、Fedorivske、Veliko-Tokmatskeエリアに集中している。現在、商業開発が行われているのはNikopolske マンガン鉱床エリアのみである(採鉱選鉱企業は、ドニプロペトロウシク州のOrdzhonikidzevsky GOK社及びMarganetsky GOK社)。

ウクライナにおいてもボーキサイトは重要性が高いが、現在は主にギニアやガイアナから輸入している。鉱床としては、ドニエプル川流域のVysokopolskoe含鉄ボーキサイト鉱床(ドニプロペトロウシク州)やSmelyanskoe 鉱床(チェルカースィ州)が知られているが、輸入鉱石に競合できないとされており、国内企業の技術による処理では採算がとれない。一方、アルミニウム産業の中心は、Nikolaev Alumina Refinery(Rusal社が所有)とZaporozhye Aluminium Combine(ZALK社、支配株式は2015年よりウクライナ国有財産基金が所有)である。

超塩基性岩の風化残積土に由来するニッケル珪酸塩の埋蔵量は、ブク川流域及び中央ドニエプル川流域に若干存在する。しかし、鉱床はニッケル品位が1%以下と低く、特に中央ウクライナのLipovenkovskoeニッケル鉱床の埋蔵量は枯渇に近い。ニッケルの国内需要はロシア及び西欧からの輸入で賄われており、国内の既存鉱床が担っているのは鉄鋼半製品の生産で、Pobuzhsky Ferronickel Plant(キロヴォフロード州ポブクスコエ)のフェロニッケル生産で賄われている。

銅のポテンシャルとしては、Volynsky銅産地地方において大規模な鉱床が賦存しているとされているものの、ウクライナには十分に探査がなされた銅鉱床はなく、開発中の銅鉱床も存在しない。そのため銅の国内需要は主にロシアからの輸入で賄われている。相当数の企業が銅及び銅合金の製造を行って

¹ E&Y Extractive Industries Transparency Initiative NATIONAL REPORT OF UKRAINE 2014-2015

おり、最大手の一つArtyomovsk Non-ferrous metals processing works社（ドネツィク州）は、輸入銅スクラップから年間100千tの銅製品を生産している。

ドニプロペトロウシク州のウラン鉱床探査

2020年7月、エネルギー・環境保護省は、ドニプロペトロウシク州の新規ウラン鉱床の開発開始を発表した。採鉱が行われるのはSurskoe及びNovogurovskoe鉱床である。

Surskoe鉱床の開発面積は0.12haで、今後3haの拡大が見込まれる。採掘工程全体では250～400haが必要となる。ウランの採掘は露天掘り、または鉱層に向けて40～70mの深さまで掘る形で行う。年間平均採掘量は100～300t、開発期間は20年を予定している。

Novogurovskoe鉱床も開発面積は0.12haで、今後3haの拡大が見込まれる。総作業面積は100haとなる。ウランの採掘は露天掘り、または鉱層に向けて50mの深さまで掘る形で行う。20年間で年間70～180tのウランを採掘する。両鉱床の開発は、Nuclear Energy Systems社（ムィコラーイウ州）が行う。

2. 鉱業政策のトピックス

環境影響評価法の改正

2020年6月18日付ウクライナ法律第733-IX号により、環境影響評価法第17条「最終・経過規定」に以下の内容が追加された。

ウクライナにおけるCOVID-19蔓延防止のためにウクライナ内閣が定めた検疫措置の期間、その完全な解除までの期間、及び解除後30日間は、予定事業に関する公開討論は、書面によるコメント及び提案（電子形式を含む）の形で行われ、これについては環境影響評価報告書に関する公開討論開始の公示及び公開討論報告書に記載される。この期間中は、公聴会は開催されない。予定された公聴会で、日付がこの期間に該当するものについては開催されなかったものとみなされる。

3. その他トピックス

United Mining and Chemical Company (UMCC社) の民営化に向けた動き

UMCC社の民営化を進めるウクライナ政府は、2019年9月25日付閣僚会議令第883-r号により、UMCC社の民営化と株式（資本金100%）売却の準備に関するアドバイザーとして、BDO Corporate Finance社を承認した。また2019年10月9日付経済発展・貿易・農業省令により、2019年秋、UMCC社はウクライナ国有財産基金の管理下に置かれた。UMCC社の民営化期限は何度か延期されており、2020年にCOVID-19と検疫措置のため無期延期となっている。

2020年7月、UMCC社は生産近代化総合プログラムの作成を発表した。同プログラムに従い、5年以内にIrshansk Mining and Processing Plant（ジトームィル州）に4つの新規プラントを建設する予定で、投資見積額は1.2bUAH（ウクライナ・フリヴニャ）である。当該プロジェクトは、UMCC社民営化準備の一環として潜在的投資家に提示される。新規プラントの資源基盤となるのはMezhdurechenskoe鉱床における新規鉱区で、まず乾式選鉱プラントの操業を開始し、菱鉄鉱及びチタン鉄鉱の品位が高い精鉱を処理する。当該プラントの建設費は約300mUAHで、建設期間は2年である。

またUMCC社は2020年に引き続き新規鉱区の開発許可取得に取り組んでいる。試算では、Mezhdurechenskoe鉱床の新規鉱区の利用がもたらす総収入は6.6bUAHとなっており、資源基盤の拡大に

より、民営化を控えたUMCC社の時価総額が上がることになる。

(2020年11月20日 モスクワ事務所 秋月悠也)